

# 早稲田社会学会ニュース 第44号

2014年10月28日発行

早稲田社会学会事務局  
〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1  
早稲田大学文学部 社会学研究室内  
Tel: 03-5286-3742  
E-mail: socio-office@list.waseda.jp  
URL : <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

## 今回のニュースの内容

1. 第66回早稲田社会学会大会の報告
2. 2014年度早稲田社会学会総会の報告
3. 2014年度研究例会の報告
4. 2013年度研究助成の報告
5. 2014年度研究助成について
6. 入退会者のお知らせ
7. 学会費納入のお願い

### 1. 第66回早稲田社会学会大会の報告

第66回早稲田社会学会大会は、2014年7月5日（土）に早稲田大学戸山キャンパス33号館第1会議室において開催されました。報告者および報告題目、司会者、討論者は次のとおりです。

#### 一般報告

- 司会者： 木村 好美（早稲田大学）  
報告者： 高橋 かおり（早稲田大学）  
「社会人」劇団参加者にとっての仕事と趣味  
——文化生産と労働の両立をめぐって  
平岡 章夫（国立国会図書館）  
「表現の自由」をめぐる社会運動の言説転換  
——「有害コミック」規制反対運動とヘイトスピーチ反対運動とを比較して  
白井 千晶（静岡大学）  
妊娠相談の現状と課題

#### シンポジウム 「当事者主義の現在——ネオリベリズムに直面する当事者と支援者」

- 報告者： 岡部 耕典（早稲田大学）  
障害と当事者性をめぐる支援の現在——「自立」と自律のポリティクス  
飯野 由里子（東京大学大学院）  
「支援」をどう政治化していけるか？  
——「ケアする側であると同時にケアされる側でもある」という立場性を活かしつつ  
天田 城介（立命館大学）  
当事者主義をめぐる社会学——その社会を診断する

- 討論者： 渋谷 望（日本女子大学）  
司会者： 麦倉 泰子（関東学院大学）

## シンポジウム報告

2012年度より3年間にわたって「当事者性と支援を問う」という共通のテーマで行われてきた連続シンポジウムの最終年度にあたる今回は、「当事者主義の現在—ネオリベリズムに直面する当事者と支援者」というテーマを設定し、障害者や高齢者などのケアの受け手としての当事者と支援者との関係性について探ることを目指して岡部耕典氏、飯野由里子氏、天田城介氏の三者に報告を依頼した。

岡部耕典氏の報告「障害と当事者性をめぐる支援の現在——「自立」と自律のポリティクス」では、自立、当事者主体についての理念の変化を現実の政策に基づきながら整理が行われた。その上で消費者主権主義を超えて「弱さの絆」に基づく新しいケア分配の構想、新自由主義に回収されない新たなケア労働の可能性が示された。

飯野由里子氏の報告『『支援』をどう政治化していけるのか？——『ケアする側であると同時にケアされる側でもある』という立場性を活かしつつ』では、障害を持つフェミニズム研究者から示された子育てや介護といったケアを行う側として女性を捉えるフェミニズムに対する違和感、家庭内、私的領域内で生じるニーズが軽視される障害学のメインストリームに対する違和感をもとに考察が進められた。「支援を受けつつ自立する」ことを考えた時に、私的領域における支援が社会的、政治的にどのように解決されていけばよいのかを考える際の難しさを示している。

天田城介氏の報告「当事者主義をめぐる社会学——その社会を診断する」では、超高齢化が進む現在において、高齢者がなぜ自らをニーズのある主体、すなわち当事者であると見なすことが困難であるのかという視点から議論が行われた。マイノリティを「働いて食っていくことの困難を余儀なくされている人々」と定義した上で、現在の高齢者がマイノリティの多数派であるにもかかわらず、ミドルクラス社会における消費の意識をそのままに持ち続けていることが自らを当事者で見なすことの困難の背景にあると論じられた。

討論者である渋谷望氏からは、パーソナルアシスタンスの伝統のある地域において形成されるオートノマスな空間の事例が提示され、現実の支援のリアリティを構想しつつ、どのようにしてネオリベラルな社会に回収されない「支援の政治化」が可能であるのかという論点が提示された。また、フロアからも国家から自立したケアを軸とするアウトノミアの可能性について議論が行われた。

(関東学院大学 麦倉泰子)

## 2. 2014年度早稲田社会学会総会の報告

2014年7月5日(土)17:30~18:20まで早稲田大学戸山キャンパス33号館第1会議室において、2014年度早稲田社会学会総会が開催されました。

### 1. 議長選出

大久保孝治(早稲田大学)

### 2. 議事

#### 2-1 報告事項

- 1) 理事会活動報告(嶋崎庶務担当理事)
- 2) 研究活動委員会活動報告(池岡研究活動担当理事)
- 3) 編集委員会活動報告(草柳担当理事)
- 4) 2014年度研究助成の申請と採択について(嶋崎庶務担当理事)

#### 2-2 審議事項

- 1) 2013年度決算案の件(山田会計担当理事)  
※同封の決算報告をご参照ください。
- 2) 会計監査報告(小島監事)
- 3) 2014年度予算の件(土屋会計担当理事)  
※同封の決算報告をご参照ください。
- 4) 長期会費滞納者への特別措置の件  
理事会より、長期会費滞納者への特別措置が提案され、総会において承認されました。
- 5) 次期役員を選出の件
- 6) 次期会長の承認の件

総会において、以下のように次期役員が推薦され、承認されました。

|          |                      |                      |
|----------|----------------------|----------------------|
| 会長       | 浦野 正樹（早稲田大学文学学術院）    |                      |
| 編集担当理事   | 草柳 千早（早稲田大学文学学術院）    | 下村 恭広（玉川大学リベラルアーツ学部） |
| 研究活動担当理事 | 田辺 俊介（早稲田大学文学学術院）    | 西野 理子（東洋大学社会学部）      |
| 会計担当理事   | 嶋崎 尚子（早稲田大学文学学術院）    | 杉本 昌昭（和光大学経済経営学部）    |
| 渉外担当理事   | 長田 攻一（早稲田大学名誉教授）     | 木村 正人（高千穂大学人間科学部）    |
|          | 那須 壽（早稲田大学文学学術院）     |                      |
| 庶務担当理事   | 伊藤 美登里（大妻女子大学人間関係学部） | 竹中 均（早稲田大学文学学術院）     |
| 監事       | 大久保 孝治（早稲田大学文学学術院）   | 干川 剛史（大妻女子大学人間関係学部）  |

### 3. 2014 年度研究例会の報告

第 36 回研究例会が、以下のとおり開催されました。

タイトル：「当事者主義の現在——ネオリベリズムに直面する当事者と支援者」

日時：2014 年 5 月 17 日（土）14：00～17：30

会場：早稲田大学 戸山キャンパス 第 10 会議室

司会者：木村 正人（高千穂大学）

報告者および題目：

熱田敬子（茨城県立医療大学ほか非常勤講師）

当事者研究制度化の方向をめぐる批判的検討——『自分自身とともに』とアカデミズムの間

麦倉泰子（関東学院大学）

ケアと依存をめぐる対立——イギリスにおける障害者運動とダイレクト・ペイメント導入の影響に関する考察

#### 研究例会報告

今回の研究例会では、障害等の当事者に対する支援および「当事者研究」をめぐる諸課題について考察を深めるため、会員の熱田敬子氏（茨城県立医療大学ほか非常勤講師）と麦倉泰子氏（関東学院大学）にご報告を頂いた。

第一報告者の熱田氏からは、今日広まりつつある「当事者研究」の制度化をめぐる検討がおこなわれた。報告では、当事者研究のいくつかの試みを整理したうえで、それをアカデミズムとの距離という点からカテゴリー化する試みがおこなわれた。さらに、その視点から、女性学における制度化の過程と現状の検討がなされた。これらの検討を通じて、当事者研究はアカデミックな知の領域とどのように関係を取り結んでいくべきかという問題が、今後、いっそう検討されねばならない課題であることが浮き彫りとなった。

第二報告者の麦倉氏からは、イギリスにおけるダイレクト・ペイメントの導入によって生じた影響について検討がおこなわれた。報告では、キャロル・トマスとクレア・アンガーソンによる議論を通じて、ダイレクト・ペイメントの導入によって生じた衝突を、「ケア」と「依存」をめぐる学問的な衝突という文脈のなかで理解する視座が提供された。そこには、障害学と社会学の間で生じた障害の定義についてのパラダイムをめぐる衝突、そして障害学とフェミニストの間で生じたケア労働と格差をめぐる衝突という重要な問題が伏在していることが明らかとなった。最終的には、当事者と支援者の間の理想的な関係は「温かい関係」か、それとも「涼しい関係」かという、福祉制度をめぐる極めて論争的な問いが提出された。

（早稲田大学 畑山要介）

## 4. 2013 年度研究助成の報告

昨年度の研究助成の対象は、次の 2 件の研究でした。

- 1) 研究題目： 妊娠・出産にまつわる困難や葛藤を支える市民活動および事業について  
研究代表者： 白井 千晶（早稲田大学ほか非常勤講師（現：静岡大学人文社会科学部））  
助成額： 15 万円
- 2) 研究題目： 若者のキャリア形成における「仕事」と「趣味」——演劇活動を続ける人々を事例として  
研究代表者： 高橋 かおり（早稲田大学文学学術院）  
助成額： 15 万円

研究成果の概要について以下の報告書が提出されました。

### 1) 妊娠・出産にまつわる困難や葛藤を支える市民活動および事業について

白井 千晶（静岡大学人文社会科学部）

いわゆる「望まない妊娠」、経済的困難、性暴力、等々の性・妊娠・出産にまつわる悩み、葛藤、困難の相談を受けている機関が、現状でどのようになっているか、リサーチをおこなった。次に、相談機関である市民団体、病医院、行政設置事業所にヒアリングをおこなった。とくに、①匿名の相談を受け付ける体制の場合、具体的支援のためにどのように顕名の関係性を構築するか、②顕名の関係性で相談体制を維持する場合、苦慮しているのはどのようなことか、③他の専門機関との連携がどのようになっているか、④他の自治体等に拡充しない原因を何と考えるか、課題は何か、を重点的にヒアリングした。

また、現代日本社会における妊娠（妊娠葛藤、出生前診断）、出産、子どもの社会的養護、養子縁組や里親など非血縁的家族形成に関連する当事者にもインタビュー調査を実施した。調査研究によって、現代日本社会における妊娠相談の課題が実態レベルで明らかになった（自治体間の格差、設置自治体に県外から相談が集中していること、機関が個々の上位機関を持っており、ローカルな連携に課題があること、相談者とローカルでパーソナルな支援関係を構築する課題、市民団体においては運営・資金の課題等々）。

妊娠相談の内容は、ヒアリングで明らかになったように、出生前診断と胎児・出生児の障害の問題、経済的問題、性暴力、人工妊娠中絶の希望、養子縁組の希望など多岐にわたっているがゆえに、不明確で全体像が描けない情報と、実際に必要な実践的な支援の接合が課題となる。現状では、相談者が適当な相談先にたどり着けず必要な情報が得られなかったり、相談機関が適切な連携先を確保できていなかったりする。今後「ポータル」を構築することが可能かが社会的課題になるだろう。パイロット的にヒアリングをおこなったため、今後も継続していきたい。

### 2) 若者のキャリア形成における「仕事」と「趣味」——演劇活動を続ける人々を事例として

高橋 かおり（早稲田大学文学学術院）

本研究では、仕事と趣味という観点から芸術活動をとらえ、若者（主に 20 代）たちを対象に、社会人劇団の事例研究と芸術活動を支える活動メカニズムについての資料分析を行った。事例研究においては、2013 年 9 月に公演を行った社会人劇団への参与観察を行い、同時に参加者 10 名へ半構造化インタビューを実施した。また、芸術活動に関する短期的労働について、求人情報や資料を収集し、分析を行った。

文化生産のパスpekティブにもとづき実施した本研究では、これまで光が当たることが少なかった趣味として活動を行う芸術家（俳優、音楽家、画家、作家など）に焦点を当てた。そして、「趣味」活動を行う芸術家の活動や彼らを取り巻く状況を考察することによって、「プロを目指す」ことの困難と、技術や才能の有無にとどまらない芸術家のあり方、さらには社会生活において「芸術活動」の役割や位置を見出すことをめざした。社会人劇団の事例研究から、両者を区別するものは才能や技術の問題にとどまらず、彼らの置かれた社会的環

境に大きく起因することが明らかになった。特にキャリア初期においては短期的で低賃金の仕事を複数掛け持ちながら生活を維持する期間が必要になる。この不安定な状況を一時的にでも受け入れられるかどうか、「プロを目指すか否か」の試金石となりうる。また女性の場合、「趣味か仕事か」という軸に加え、結婚や子育てというライフイベントを考慮しなければならず、「プロを目指す」ために犠牲にしなければならないことは多い。他方、仮に趣味として芸術活動が続けたとしても、仕事や家庭生活との両立は容易ではなく、また別の問題に直面するのである。

本研究では女性の社会人劇団の事例を取り上げたが、今後は性別を問わず、また「プロを目指す劇団」を含めて調査を続けていく予定である。また、美術、音楽といった演劇以外のジャンルについても、共通点・差異点を考慮し調査を進めていきたい。

## 5. 2014 年度研究助成について

2014 年度の研究助成の募集に対して 2 件の申請があり、2014 年 5 月 17 日の理事会で審査した結果、以下のとおり助成が決定されました。

- 1) 研究題目： 災害時の地域社会の創造性に関する考察——原発被災地域の事例から  
研究代表者： 川副 早央里（早稲田大学大学院文学研究科社会学コース博士後期課程）  
助成額： 15 万円
- 2) 研究題目： 地域産業から考える災害復興——宮城県気仙沼市を事例として  
研究代表者： 野坂 真（早稲田大学大学院文学研究科社会学コース博士後期課程）  
助成額： 15 万円
- 3) 研究題目： 色覚検査における視覚空間の構造分析  
研究代表者： 馬場 靖人（早稲田大学大学院文学研究科表象・メディア論コース博士後期課程）  
助成額： 10 万円

## 6. 入退会者のお知らせ

理事会において以下 2 名の入会が承認されました。（以下、敬称略）

|                    |                             |
|--------------------|-----------------------------|
| 2014 年 5 月 17 日理事会 | 石渡 拓也（早稲田大学文学研究科社会学コース修士課程） |
| 2014 年 7 月 5 日理事会  | 竹越 遥（早稲田大学文学研究科社会学コース修士課程）  |

理事会において以下の 4 名の退会が承認されました。（以下、敬称略）

|                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 2014 年 5 月 17 日理事会 | 河西 宏祐（早稲田大学人間科学学術院）    |
|                    | 横尾 夏織（早稲田大学大学院社会科学研究所） |
| 2014 年 7 月 5 日理事会  | 峯島 正行（有楽出版社）           |
|                    | 橋本 梁司（武蔵野美術大学）         |

## 7. 学会費納入のお願い

本年度の学会費が未納の方、および過年度分の未納がある方宛てに、振り込み用紙（お名前と該当の未納年度を印字しております）を同封いたします。早急にお振り込みくださいますようお願い申し上げます。なお、本状と入れ違いになりました節はご容赦ください。

口座番号：00100-3-38020（郵便振替）

加入者名：早稲田社会学会

（年会費：一般会員 5,000 円 学生会員 3,000 円）

複数年度分の会費を納入される場合、および転居・異動などがあった場合には、通信欄にその旨を明記ください。なお、年会費の納入記録についてのお問い合わせなどがありましたら、事務局（socio-office@list.waseda.jp）までご連絡ください。

### ■学会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします！

近年、学会費納入率が低下しており、学会運営に支障をきたしております。会員の皆様には、引き続き、早稲田社会学会活動にご理解いただき、会費を納入いただけますようお願いいたします。

以上